

Connected Pedestrian Roads

-手賀沼の辺りの道-

千葉県我孫子市にある手賀沼の辺り。ここは畑や沼、木々に囲まれており、都市化が行われていない自然豊かな場所である。しかし、大通りや街の高低差によって、この地域と周辺の地域が切り離されてしまっている。そこで、我孫子市と柏市を直接的に繋ぐことで、切り離されたこの場所が、周囲と調和し、地域全体が、より活性化していくのではないかとこの提案である。

ダイアグラム



地図を見るとこの敷地だけ住宅地ではなく、周囲と切り離された土地である。



まず、公園と公園を線で結び、そこに既存の道路や小道、花火大会打ち上げ場所の方向に線を引く。また、畑の区画割りに線を引く。



各場所の周辺敷地の要素から、用途が生まれる。(例：ブルーベリー畑の上⇒ブルーベリーカフェ)



そのような敷地の要素から、建築を作っていくことで、この場に適した建物となり、周囲と繋がることのできるのではないか。



敷地写真 (遠)



敷地写真 (近)



我孫子市の文士人



花火大会風景

建築の特徴

- ・長さ約2.5 kmに及ぶ線上の建築。
- ・2階の道それぞれに、対位法を用い、空間的な面白さを与えた。
- ・上と下の2つの道を作ること、下の既存のものを壊さずに上下の関係が生まれる。

・道路に橋が架かるように沼へと道を伸ばすことで沼と土地の繋がりが強くなる。

・敷地から、用途を得ることで、その場に最も適した機能を持たせる。

・建物の北側の地面にブリッジを作り、高低差によって離された北側との関係を繋いだ。

計画の概要

敷地は、千葉県我孫子市の手賀沼公園と千葉県柏市の北柏ふるさと公園の間の手賀沼沿いの畑地帯である。我孫子市は、白樺派の偉人たちの別荘地などがあり、昔から自然豊かな街で、あった。しかし、都内に電車で行きやすいなどもあり、高度経済成長期からベッドタウンとなってしまった。その結果、どんどんと市街地化され、道路、住宅街、などにより自然と街の関係が希薄になっている。

そこで私は、離れてしまったそれぞれの関係をもう一度繋ぎ直そうという提案である。

計画の背景

現状として、この敷地は、まだ市街地化されていなく、畑があり、緑豊かな場所である。手賀沼と街が、道路や堤防、住宅地によって離れてしまっている。南の地域と北の地域が高低差によって離れてしまっている。

東側は市街地が形成され、駅の前の道路を境に、畑と住宅地が離れてしまっている。

また、手賀沼は我孫子市と柏市の間に面しており、市街地開発されていない土地が、我孫子市の公園付近から柏市の公園付近である。だから私は、柏市と我孫子市を繋ぐ道を作ること、離れてしまった上記のことも繋ぐことのできるのではないか、そして、それらが繋がることで、街全体がより活性化していくのではないだろうか。



図1 エントランス内観
特徴：高さ(3400-3900mm) 幅1



図2 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 3分所(1, 21, 29, 35, 39)



図3 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 7分所(2, 4, 18, 22, 28, 32, 36)



図4 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 5分所(3, 6, 17, 31, 37)



図5 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 7分所(5, 7, 11, 13, 15, 23, 33)

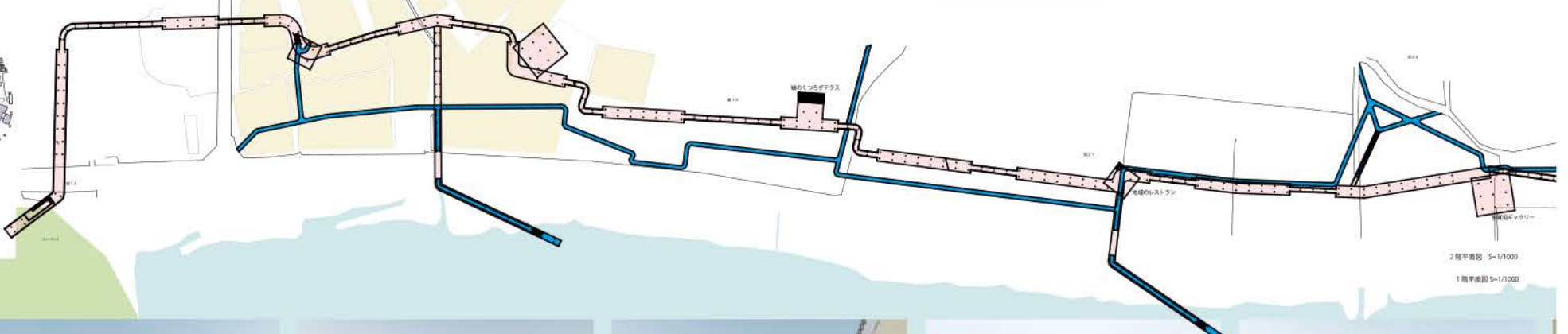
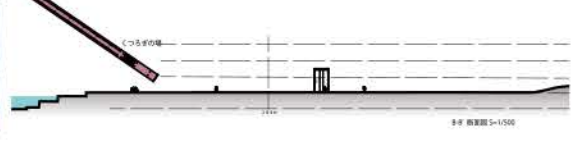
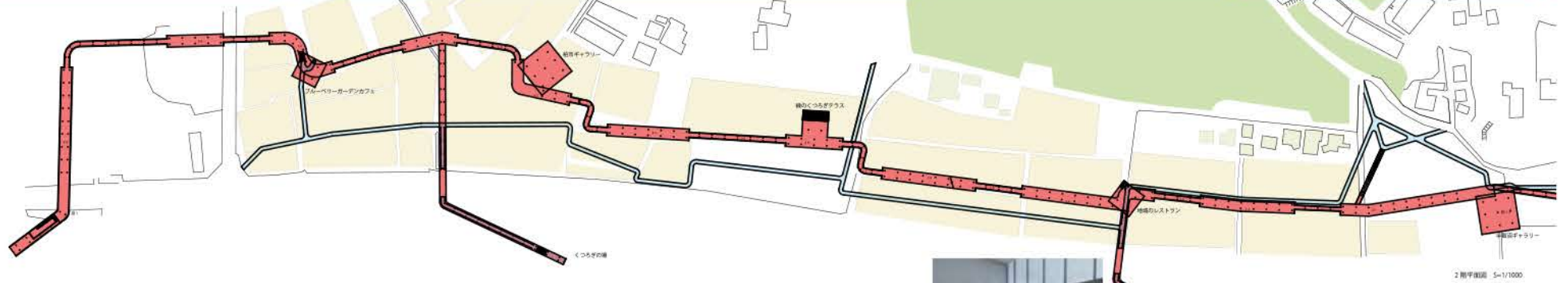


図15 エントランス外観



図14 下の道から道路を眺める



図13 下の道から道路を眺める



図16 北側のアトリウムから道路を眺める



図17 北側のアトリウムから下の道を見下ろす



図6 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 5分所(6, 14, 24, 30, 40)



図7 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 5分所(8, 12, 20, 26, 34)



図8 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 3分所(10, 16, 38)



図9 廊下
特徴：幅1(1400mm) 高さ(2700mm) 幅1 3分所(19, 25, 27)



図12 エントランス内観
特徴：高さ(3900mm) 幅1(1400mm)

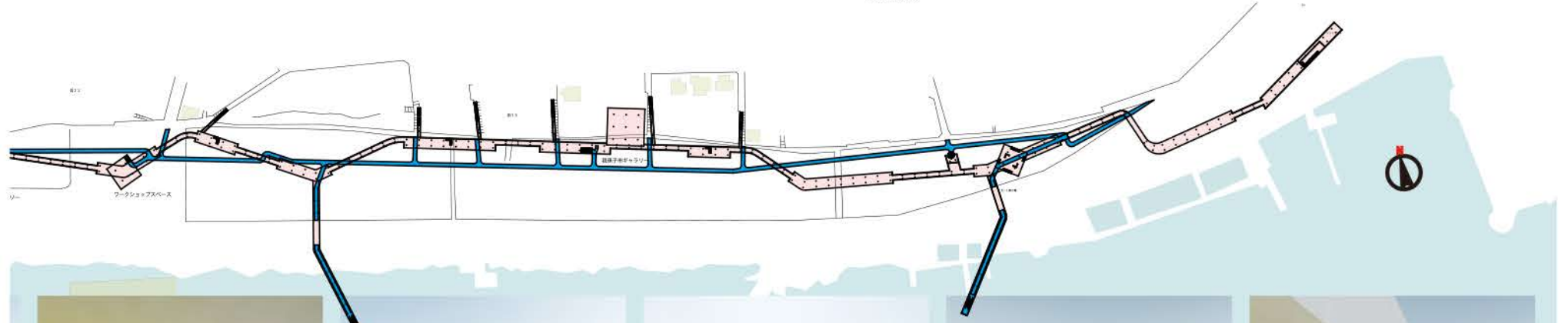
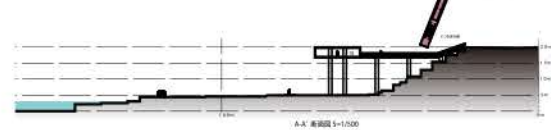
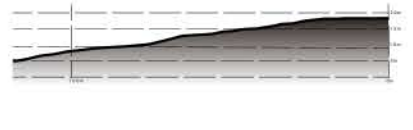


図18 下の道からアトリウムを眺める



図19 下の道からアトリウムを眺める



図20 北側のアトリウムから道路を眺める



図21 下の道を見下ろしている様子



図22 下の道からアトリウムを眺める